
模型戦士ガンプラビルダーズA

Mr・H

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

模型戦士ガンプラビルダーズA

【Nコード】

N7368X

【作者名】

Mr・H

【あらすじ】

「こいつが・・・ビギニング・・・」

ある日、いきつけの模型店で売られていたビギニングガンダムを手に入れた主人公。

それが、物語の始まりだと、誰も知らない・・・！

さまざまなガンプラ、さまざまなガンプラビルダー、そして・・・

小説オリジナル仕様のガンプラや最新作「ガンダムAGE」本編未

登場機体も出る前代未聞、ガンプリビルダーズ小説！

「俺が、俺たちが！ガンプリビルダーだ！」・・・こんなノリだが心配無用・・・かもしれない。

プロローグ

「こいつが・・・ビギニング・・・」

ある日、俺はある1つのガンプラを手に入れた。

そいつの名はビギニングガンダム。

ある人物が最初に手にしたこのガンダムは、持ち手によって無限の可能性を持つという、ある意味ガンダムAGE-1に近い代物だ。つまり、こいつの性能を引き出せるかどうかは持ち手次第ってわけだ。

「・・・決して安くはない、買い物であった・・・」

財布の中身の諭吉が1枚、千円札が4枚消えた。ビギニング以外にもパーツ取り等のためにHGUCのドム・トローパーとかSEED HGのバクウ（ちなみに2個買い）とかジャンクパーツとかパテとかセメダインとかを買ったから当然と言っちゃあ当然か。

「しかし、まあ、これだけ買ったといふかなんというか・・・ま、しばらくはガンプラ買うの避けようか・・・」

俺は両手に持った模型店の袋を見て溜息をつきつつ、家へと帰る。

キャラ解説

名前…未河 悠来

年齢…18歳

性別…男

解説

本小説の主人公。かなりのガノタらしく、守備範囲はファーストからAGEまで。

ある日、彼がビギニングガンダムを購入するところから本作は始まる。

なお、ガンプラの腕前はまだまだひよっころしくこれからどう成長していくかは彼次第と言ってもよい。

名前…緑先 阿須那

年齢…18歳

性別…女

解説

ヒロイン・・・？ガンプラやゲーム専門のガノタ。最近はAOZの機体がお気に入りらしく、機体のスクラッチすら行う始末。

そのためか髪から塗料の匂いがすることも・・・

だがスタイルなどを見れば街を歩けば振り向かない男はいない。

だが日常的に連邦軍の野戦服を着てるのはちよつと・・・

名前…チャック・A・ラスキー

年齢.. 17歳

性別.. 男

解説

日系2世の少年。

ガンダムA G Eからガンダムに入った。

いままでガンプラ以外のプラモデルで鍛えたプラモテクニックを生
して戦うとか。

悠来のライバル的なキャラ。

キャラ解説（後書き）

次は登場オリジナルガンブラですぞー

登場オリジナルガンプラ紹介（前書き）

中には塗装変更しただけの機体もあります。

登場オリジナルガンプラ紹介

名前…ビギニングAガンダム

解説

悠来が改造したビギニングガンダム。Aは「アストレイ」もしくは「アストレア」の略称と思われる。

各所に手を加えており、頭部はガンダムTR-6風にしたり、背部にストライカーパックやシルエットを取り付けられるようにしたり、両肩をストライカーパック対応にしたジム改「ワグテイル」の物に変える・・・と言った具合に改修されており、原型機の面影は胴体と腰部、脚部の一部しかない。

名前…ハイザック「ヴァナルガンド」GPB-Aカラー

解説

阿須那が使用するガンプラ。塗装をコバルトブルー中心に変更し、モノアイ部もグリーンに変更している。

機体性能は元のハイザック「ヴァナルガンド」と同じなため、かなりの機動性を誇る。

名前…ガンダムAGE-1 ノーマル GPB-Aカラー

解説

ラスキーが使用するガンプラ。塗装を青と白と緑に変更しただけのドが付くほどのノーマル機。だが機体ポテンシャルは現行最新鋭と言うだけあってか高い。

当然ながらAGEシステムに蓄積されたデータを元に新装備が追加

されるため、戦えば戦うほど強くなる。

登場オリジナルガンブラ紹介（後書き）

次からは1話です。

のんびりいきますので生暖かく見守ってください。

第1話「これが俺のビギニングだ!」 (前書き)

ガンプラ講座を混ぜつつ、進めていきたいなあ・・・

第1話「これが俺のビギニングだ!」

「よーっし、これで胴体は大分出来あがったな。」

俺の名は悠来。未河 悠来。

ガンダム大好きな18歳。当然ながら男だ。何? 男の娘? なにそれ? ……ってのは置いといて、俺は今あるガンプラをくみ上げている。

その名は「ビギニングガンダム」!

こいつは偶然たたき売りされてたのを買ったんだが……マジで半端ない。

店のおっちゃんがこっそり耳打ちしてくれたが、こいつには様々な可能性が眠ってるらしい。

なら話は楽だ。俺だけのビギニングに仕上げるだけだ。

「よし、次は……お、ジャンクのHGSEEDのエアールストライクの背部パーツだ。こいつは……要加工だが、付けられそうだな。……まずは、ヤスリとカッターである程度削って……次に、パテをつと……よし、こうやって盛って……つと、よし、あとは硬化するまで置いておくか。」

次はつと……

「悠来ーお友達が来てるわよー」

「あーい今行くー!」

つと母さんに呼び出されたから下に行く。

ガチャツ

「よう……っていつもその服だな。阿須那。」

「なによ、文句あるの?」

紹介しよう。

今俺の前でポテチを食ってるどたぶーん(胸的な意味で) 娘が緑先阿須那。

着てる服がなぜか地球連邦軍の野戦服というコスプレガールである。もし、こいつが普通の女性らしい服着て街中歩けば、振り向かない男はいない。

が、こいつは俺が言うのもなんだが、ガノタでさらにプラモ作りは俺よりもかなり腕前がいい。

だからこいつの家行くと、専用の塗装ブースとかあったりでプラモ作りにはちょうどいい家だ。

「で、買ったんでしょ。ビギニング。今どれぐらいなの？」

「胴体完成して、今ストライカーパックとかシルエットとかを付けるように仕込んでる。」

「そう。・・・ってストライカーパック付けるの！？」

「まあ、お前が作った1／144サイズガンプラ用タクティカルアームズとかタクティカルアームズIIとかも取り付けられるようにはしてるけど・・・」

「ああ、あれねえ・・・って、まさか？」

「おうよ！そのまさかさ！腰にはガーベラ・ストレート等を取り付けようにしたりする予定なんだ。」

「・・・ある意味、あんたのビギニングは「アストレイ（いいかげん）」だね・・・」

「「アストレイ」か・・・うん。いいなそれ。」

「・・・はあ、あんたはある意味すごわよ・・・」

「で、阿須那は何作ってきたんだ？やっぱファイバー？それともTR-6フルアーマー・クインリイ？」

「いや、作ったのはこれよ。」

と阿須那は鞆から箱を取り出して、中身を見せる

「これ・・・何？」

「ハイザック「ヴァナルガンド」よ。」

「え・・・？これがハイザック？」

「そうよ。」

「・・・かっこいいなあ・・・」

「ね？カッコいいでしょ？」

「あ、そろそろパテが固まってくるころだし・・・つづきは、俺の部屋で、な。」

「うん。いいわよ。どうせあんた一人だと暴走してそうだし。」

「・・・サーセン」

俺の部屋に入って、阿須那が一言

「あんた、パーツ取り以外にもガンプラ買ったでしょ。袋でバレバレよ」

「はいすみません。」

「ったく、師匠であり姉代りでもある私がいなきゃもう・・・ブツ
ブツ」

「・・・ところで、ビギニング制作のお手伝いは・・・」

「やるわよ。塗装とかはあとで家でやるわよ。」

「了解。」

作業再開！

「次は頭部だな・・・形状変えてみるか・・・」

「どういう風にしたいの？」

「ガンダムTR-6風にしてみたいなあ、なんて。」

「あら、私もよ。」

「んじゃ、パテ盛って、TR-1のアンテナ部を加工して、さらにバルカンポッドをくつつけられるようにしてっ・・・」

「次は肩部だけど・・・何これ？」

「ああ、ジム改「ワグテイル」の肩を小改造して移植してるからな。」

「しかもちゃっかりストライカーパック対応仕様にしちゃってるし・

・・・」

んでそうこうしてるうちに時間は経ち・・・

「ふう、やっと形だけは様になったな。」

「そうね。後は塗装して完成ね。」

「んじゃ、これから塗装しに。」

「私の家に行くわよ！」

「で、今回はどんな色にしたいんですか？」

「まあ・・・赤と白、一部ブルーとグリーンで。」

「センサーカラーは？」

「それは黄色で」

「了解。塗装は私に任せて、あんたは・・・そうだね。これでも見てなさい。」

「・・・って電撃ホビーマガジンか・・・」

塗装が終わるまで電撃ホビーマガジンを読んで待機。

・・・終わるころかな・・・

「悠来ー塗装終わったわよー」

「あーい。」

お、終わった。見に行くか・・・

「おー・・・かつこええー・・・」

「どうよ？あんたに合わせてガンダムアストレイレッドフレーム風に塗装して見たわよ。」

「すげえ・・・これが、おれのビギニング・・・」

「さて、完成したからには・・・？」

「やっぱりガンプラバトル・・・って言いたいけど・・・」

「何よ」

「装備作ってないや」

「・・・あ、そ」

続く

次回予告

ついに完成したビギニングAガンダムを手にし、悠来はバトルにくりだす！

初戦の相手は・・・なんとAGEとジェノアスカスタム！阿須那とのタッグとはいえ、これはちょっと厄介！？

次回、模型戦士ガンプリビルダーズA第2話「ビギニングA&ハイザック「ヴァナルガンド」VSAGEノーマル&ジェノアスカスタム」

第1話「これが俺のビギニングだ!」(後書き)

おまけ 悠来と阿須那と作者のおしゃべりタイム!

悠「ってことでついに第1話が始まったってことではい、主人公の悠来です」

阿須「はい、ヒロイン(?)の阿須那です。」

作「どうもー最近、ジェスタが欲しいし、ISの小説が欲しいし、ACVもほしい作者でーす」

悠「物欲豊富だな作者」

阿須「しかも、改造ガンプラはジムストベースの魔改造機ぐらいしか作った経験がないらしいわよ」

作「う・・・そんなこと言うとおっちゃんないちゃうぞー」

悠「こいつ、まだ20歳にもなってないのにおっちゃんとか・・・」

阿須「最低だね。」

作「うっ、俺ショック・・・」

悠「ってことで感想などをお待ちしております!」

阿須「感想はここで発表しちゃうからドシドシ書きちゃってください!」

作「鴉と山猫と鋼鉄の狼と叢雲は無限の空に喧嘩を売る(?)もよろしく!」

悠&阿須「ちやっかり某壁際のいぶし銀みたいなことってるんじゃない!」

作「うわああああー!」

ご感想、お待ちしております。

第2話「ビギニングA&ハイザック」「ヴァナルガンド」

VS AGEノーマル

さてさて、今回は初バトルですよー

第2話「ビギニングA&ハイザック」**「ヴァナルガンD」**

V S A G E ノーマル

ここは悠来や阿須那がよく行く模型店。今日はすこし、ガンプラバトルのコーナーが荒れているようだが・・・？

「くそっ、さすがは最新鋭機・・・！ジェスタ3機でもなんともならないのか！？」

「くっ、あの白いのにはかすらせたが・・・ガンダム・・・！」
「畜生！もうもたないぞ！」

ジェスタ3機と対峙するのは白いジェノアスカスタムとガンダムAGE-1ノーマルの2機。

すでにジェスタはボロボロに対し、相手はビームライフルがかすった白いジェノアスカスタム以外、無傷。

ジェスタ自身、性能もUC0090年代系量産機の中ではトップクラスだが、相手は一枚上手だった。

高貫通性を持つドズライフルを装備しているガンダムAGE-1、エースパイロット仕様のジェノアスカスタム。

また、ガンダムAGE-1は丁寧に作られている為か、素組み以上の性能を誇っている。

「ウ、ウワー！」

最後の1機がやられ、ゲームセット。

だがAGEのパイロットとジェノアスカスタムのパイロットはまだ戦う気があるらしく、挑戦者を求めている。

「やっと装備ができた・・・」

「はい、お疲れさん。」

所変わって悠来の自宅。

ここではビギニングAガンダムの装備を取り付けていた。

「まさか、専用ビームライフルを改造してダブルビームライフルみたいなにするなんてね・・・しかも砲身をバクウのレールガンを加工してるし。」

「へへっ、ちなみにそれに合わせてストック部分とかも長くしてあったり。」

「あと、背部にタクティカルアームズIIを装備させてあるから、ビームサーベルがなくなっても安心できるようになってる。」

「・・・ところで、バトルにいかないの？」

「ああ、そうだな。バトル行ってみるか。」

二人は模型店へと足を運んだ。

模型店に入った二人をまっていたのはさまざまなガンプラビルダーたちがぶつたおれている光景だった。

「・・・なにこれえ・・・」

「知らないわよ。なんか特売に遅れたっていう感じでもないし・・・」

二人が困惑していると、ストライクノワールを抱えた小学生ぐらいの女の子が虚ろな口調で二人に話しかけてきた

「・・・AGE・・・怖い・・・」

「は?」

いきなり話しかけられびっくりする二人。それすら気にせず、女の子はしゃべりつづける

「いま、白いジェノアスとガンダムAGEが・・・このビルダーたちをボッコボコに・・・してるの・・・」

「・・・どおりでみんな「AGEが・・・」とかとゾンビのように言ったりしてるわけね・・・」

「なあに、AGEなんか俺のビギニングでなんとかしてやるよ。」

「ちよっと。相手は二人なのよ。私も付きあうわよ。あの店荒らしAGEコンビをボッコボコにしてやるわよ・・・!」

二人はパイロットスーツに着替え、ポッドに入り、作ったガンプラをガンプラスキャナーの中に入れる。

「まってるよ、AGE・・・にげるんじゃねえぞ・・・」

「どこの馬の骨の刺客かは知らないけど、ここの店のビルダーをフルボッコにした罪はでかいわよ・・・！」

対戦相手が表示され、スクリーンに風景が映し出される。

「ビギニングAガンダム、未河 悠来、出る！」

「ハイザック『ヴァナルガンド』緑先 阿須那、出撃します！」

ホワイトベースから勢いよく射出されるビギニングAとハイザック『ヴァナルガンド』。戦場は市街地。

障害物を利用しながら戦うフィールドだ。

『匂うな・・・新しい獲物の匂いが・・・！』

2機の出撃に気がついたのは白いジェノアカスタム。ご丁寧にもアニメ内での搭乗パイロットの名ゼリフの改編セリフを呟いてだ。

『新手か・・・僕のAGEの相手じゃないけどね！』

AGE-1ノーマルとジェノアカスタムが手に持った射撃武器で2機を攻撃する。

「くっ！なんだ！？片方、ビームライフルに文字通りライフルिंगでも掘ったのかって言いたくなるぐらいビームが螺旋状に回転してやがる！」

「そうね・・・私が援護、悠来が突っ込んでタクティカルアームズIIでぶったぎるでいい？」

「・・・OK。んじゃ、援護よろしくな！」

ダブルビームライフルを構え、撃ちながら突っ込むビギニングAガンダムと手にしたロングライフルによる援護を行うハイザック『ヴァナルガンド』。

対するは白いジェノアカスタムと青と白と緑に塗装されたAGE-1ノーマルは機体を障害物に身を隠しつつ、攻撃する。

『なんだ？あのガンダムは？』

『たぶんあれはビギニングのカスタム機だろうな。背負ってるのはアストレイ系の武器だな。』

白いジェノアスカスタムとAGE-1ノーマルは通信を行いながらビギニングAを攻撃する。

『しかし、あんな機体・・・ウワァッ！』

『くっ！もう一人いたのか！？』

白いジェノアスカスタムにハイザック「ヴァナルガンド」のロングライフルが命中する。

「もらったあっ！」

そのスキに接近したビギニングAがソードフォームに変形させたタクティカルアームズIIで白いジェノアスカスタムの右腕を切り落とす。

（もう片方は・・・こりゃ、距離があるな・・・ならっ！）

タクティカルアームズIIをガトリングアームに変形させ、AGE-1ノーマルに照準を合わせる。

「とったっ・・・！」

そのままトリガーを引き、AGE-1ノーマルのシールドを破壊する。

『くそっ、シールドが！？・・・ならっ！』

AGE-1ノーマルが左手にビームサーベルを持って、突っ込んでくる

「ちっ！」

すぐさまタクティカルアームズIIをソードアームに変形させ、片方の腕でビームサーベルごとAGE-1ノーマルの左手を切り落とす。

『うわあっ！』

「そして、こいつで！」

そのままもう片方の腕でAGE-1ノーマルの右腰のビームサーベルホルダーを突き刺す。

『ビームサーベルが!』

「とどめ・・・っ! ロックオンアラート!? 後方!？」

ビギニングAがすぐさま後ろを振り向くと左腕にビームスプレーガンIIIBをもった白いジェノアスカスタムが今まさにビギニングAを撃とうとしていた。

「やらせない!」

すると白いジェノアスカスタムへ急接近したハイザック「ヴァナルガンD」がビームサーベルで白いジェノアスカスタムを一刀両断する。

「サンキュウ! 阿須那!」

「なにドジ踏んでるのよ! この馬鹿悠来!」

「すまねえ!」

クティカルアームズIIをソードフォームに変形させ、構える。

『くっ! こいつで!』

AGE-1ノーマルがドズライフルを撃ちながら前進してくる。

「タクティカルアームズには、こう言う使い方もあるんだよ!」

ソードフォームに変形しているクティカルアームズIIをAGE-1ノーマルの胸部に向けて投げる。

『なっ!? うわああああっ!』

胸部にクティカルアームズIIが突き刺さったAGE-1ノーマルが倒れ、爆発する。

「勝者、ビギニングAガンダム&ハイザック「ヴァナルガンD」」
表示とともに、戦闘が終了する。

ポッドから出ると、AGE-1ノーマルをもった緑色の髪の毛の少年がこっちを見た後、すぐ出口へと走り去っていく。

「・・・なんだ? さっきのが対戦相手だったのか?」

「そうかもね。・・・ちよつとやりすぎたんじゃないの?」

「あれでおあいこ・・・にはならないな。こりゃ。」

続く

次回予告

次の対戦相手はなんと「赤いダブルオー」！トランザムじゃない、デフォで赤いダブルオー相手に、悠来はどう戦う？

次回模型戦士ガンプラビルダーズA第3話「普通に赤くしても3倍にはならないぞ。・・・多分。」
お楽しみに。

おまけ 悠来と阿須那と作者のおしゃべりタイム！

悠「どうもー悠来です。」

阿須「どうも、ヒロイン（予定）な阿須那です。」

作「どうもー作者でーす。」

悠「今回はガンプラ講座と題しまして、ガンプラ作りに必要な道具の解説を行っていきます。」

作「まずはニッパーだな。こいつがなきゃガンプラは作れない。」

阿須「ちなみに、基本的にはプラモデル製作用のプラスチックニッパーが模型店やガンプラを扱っているデパートなどに売られているわ。もしなかったらホームセンターなどに売っている精密ニッパーとかを代用するのも手ね。」

悠「次は、ヤスリだね。これでランナーから切り離したパーツのバリ（某アニメーターの愛称ではない）を削ったりするのに必要だよ。」

阿須「基本的には持ち手があるヤスリをおすすめするけど、もっと細かく！っていうプロな人は紙ヤスリとかをおすすめするわよ。あと、紙ヤスリは目の粗いものほど数字が小さく、目の細かい物ほど数字が大きいから買う時にはお目当ての目の物を買うといいわよ。」

悠「次は・・・接着剤だね。」

阿須「基本的にはスチロール樹脂系プラモデル用の接着剤（例えばセメダインとか）を買うといいわよ。ガンプラはほとんどスチロール樹脂系プラスチックが素材だからそれ一つで何とかなるけど、中にはABS樹脂系プラスチックが使用されているガンプラもあるから気をつけてね。」

悠「今回はこれぐらいかな？次もガンプラ講座やるから期待して待ってね！」

第3話「普通に赤くしても3倍にはならないぞ。・・・多分。」（前書き）

あらすじ

俺、「未河 悠来」は完成した「ビギニングAガンダム」を手にか
ンプラバトルをやりに行きつけの模型店へ友人の「緑先 阿須那」
とともに行ったんだけど入ったら「ガンダムAGE―1ノーマル」
と「ジェノアスカスタム」のコンビが猛威をふるっていた。
それを多少苦戦しつつ撃破した俺たちであった・・・

第3話「普通に赤くしても3倍にはならないぞ。・・・多分。」

キンコンカーンコン

あのガンプラバトルから2日たったある日、一つ下の学年に転入生が入ったらしい。・・・もうすぐ卒業な俺たちにとっては、無視できる話なんだけど・・・

「え？その転入生が俺に話があるって？」

「そうよ。悠来くんとあの転入生って知り合いなの？」

「さあ？・・・で、その転入生サマの特徴を教えて貰いたいものだけど。」

「うーん・・・そうね・・・外見はガンダムA G Eの主人公をちょっとかつこよくした感じかな？」

「へーへー・・・」

俺は持ってきたホビージャパンと電ホビのガンプラビルダーズのペー지를読み比べする。

「・・・汎用性ならビギニングDだけど武装だとビギニングJだよなあー」

「ビギニング？あんなのよりA G Eだよ」

ふと横から聞きなれない声が聞こえる。

「ん？だれだ？横槍入れてるやつは・・・」

俺はぼやきながら首を声がした方向へ回すと・・・

「ってあんた、おとといの・・・！」

「へえ・・・ということは一昨日、僕のA G Eの胸に大剣ブン投げたガンダムをつかったのは貴方でしたか。」

最悪だあ・・・転入生サマは一昨日やつつけたA G Eのパイロットだった！・・・どのラノベだよ。

「ま、ここで揉めたら先生に目え付けられるぞ。上級生に喧嘩売る

ほどやんちゃってね。」

「はいはい。」

そのとき、俺が一番聞きたくない声を上げて俺が一番合いたくない奴がやってくる。

「ゆうううううう！らああああああい！俺もガン普拉組み上げたぞおおおお！！！」

「げっ！」

（・・・転入生。あの声のやつには関わるな。俺も参りかけてるんだ。あのバカは。）

（・・・分かりました。）

俺は転入生にこっそり耳打ちする

「・・・で、何の様だ、年中バーニング男。」

「おう！よく聞いてくれた！俺もついに自分だけのガン普拉をくみ上げたんだぜ！」

「ほう。でどんなキットだ？」

「ああ！ダブルオーガンダムだ！しかも燃え上がるファイアパターン付きでさらに赤く塗装したんだ！」

「ほう、てつきりゴッドガンダムとかにするかと思ったんだが。」

「あれは金色に光るからなあ・・・だったら赤くなる方を選ぶ！」

・・・目の前にいる「年中バーニング男」の異名を持つこの男。こいつの名前は「爆山 櫻炎」。

なにかと燃える男でさらに赤い色を好む。ついでに言うとかいつがいてなぜか室内気温が異常に上がる。こいつのクラスは俺のクラスのお隣さんだが、どういう理由かは不明だが、コイツのクラスの教室気温がなぜか真夏日になるとか。

ついでに言うとか俺が今居るクラスの気温はこいつが来たせいで30℃まで上昇。ちなみに外は20℃前後。風邪ひくっての。

「ってことで悠来！後で勝負な！」

「わーかった。もうすぐ帰りの会始まるっての。早く行け。」

「お、おう！じゃあな！」

ちなみに転入生はあまりの気温変化の激しさに目を回し掛けていたので女子がアクエリアス（無論、ガンダムエピオンの兄弟機ではない。）を飲ませて対処した。

んで放課後となり、家帰ってビギニングAの調整に入る。

「やっぱ相手がダブルオーだしなあ……でもノーマルだとランザムに制限かかってるんだよなあ。……よし、今回はあえて遠距離戦に望むか。ランチャーストライカーをくっつけてつと……これでよし。」

そして、行きつけの模型店へ行くと……

「あ、いらっしやーい。あのバーニング野郎、来てるぞ。」

「は、はい。」

店の中がむっちゃ暑い。だから奴は……

「よおーし、来たな。今回はタイマンだ。さあ、始めるぞ。」

「ああ。」

ポッドの中に入り、ハロ型スキャナーにガン普拉をセットする。

今回の戦闘エリアは、ガンダムOOファーストシーズン第1話の演習場。

俺は地上スタート、櫻炎は軌道エレベーター付近の空中から降下するようにスタートする。

「……そこだっ！」

まずは俺の先制攻撃。ファーストアタックダブルオーの射程外からのアグニによる狙撃だ。

『ちょ、いきなり攻撃ってありかよ！』

櫻炎が通信越しに叫ぶが俺は無視して、狙撃場所を変えようとする

が・・・

『トランザム!』

「っ!」

いきなりのトランザム。モニターにも「敵機トランザム中!」という警告文が出る。

「ちっ! 近づくな!」

アグニをしまい、右肩に装備した120mm対艦バルカン砲と左手に取り出したMMP-80ザクマシンガンを撃ちながら相手との距離を放す。

「・・・いや、まてよ・・・ノーマルのダブルオーガンダムなら・・・スキがあるかも知れないな・・・」

俺はそうぼやきながらMMP-80ザクマシンガンで相手を牽制しつつ、動きまわる。

すると

『げっなんだ!? オーバーロード!? くそっ、うごかねえ・・・!』

相手は強制的にトランザムが解除され、動けなくなる。

「そこだあ! 全部持っていけえ!」

俺はその時を待っていたかのように・・・「ガンダムトゥルーオデッセイ」のガトリングファイアの如く、装備している火器を全部ダブルオーに叩きこんだ。

当然、動けないダブルオーは避けれるわけもなく、全弾命中。やりすぎ? オーバーキル?

なんとでも言え! 気にしないからWWW

戦闘が終わると櫻炎がなぜかうれしそうな顔をしていた。

「いやあーガン普拉バトルって負けても楽しいもんだな! はっはっは!」

「そりゃあな。」

「よし、今からカスタムしてやるからなー!」

と叫んで櫻炎が走り去る。

「「「「ぶうえーくっしょん!」」」」

それと同時に店にいる皆がクシャミをしたのは気温が下がっただけである。

次回予告

ついに現れる悠来への刺客!なんとそれは「ビギニングD」だった!
次回、模型戦士ガンプラビルダーズA第4話、「ビギニングA VS
ビギニングD あと女達のバトル」

次回もまた、見てくれよ!

おまけコーナー ガンプラ講座「ガンプラの種類編・その1」

悠「どうもー悠来でーす」

阿須「どうも、今回出番なしの阿須那でーす。」

悠「今回は、ガンプラの種類について説明しまーす」

阿須「基本的にはF G、H G、M G、R G、P G、メガサイズモデルの6種類あるのよねー。」

悠「ちなみに最近ではゲイジングバトル用のA Gも出たから7つに増えたんだ。」

阿須「おもにこの小説に出てくる機体はほとんど1／144スケールのH Gなんだって。」

悠「んで最もでかいのが1／48スケールだよね。」

阿須「そうなるわね。」

悠「次回もガンプラの種類編だよ!またな!」

第3話「普通に赤くしても3倍にはならないぞ。・・・多分。」（後書き）

12月にビルダーズパーツシリーズのシステムベースとウェポンセット01が出るそうです。

クリスマスにおねだりしたら・・・ダメ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7368x/>

模型戦士ガンプラビルダーズA

2011年11月17日19時36分発行